

新宮山彦ぐるーぷ第2269回

## 行仙宿巡回整備

◇実施日 12月17日(日) 小雪

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、梶野照雄、松井淳(京都市) 4名

行仙宿は12月10日に迎春準備を済ませたが、モノレール終点の足場設置を残していたので年内に工事を済ませるべく出向くことにした。沖崎さんも湯川君と一緒に参加することになり、その後湯川君の友人で山岳ガイドの松井淳さん(京都市、ゼロ・グラビティ代表)も加わることとなった。



登山口に集合

足場完成

気温はマイナス3℃

午前9時半に登山口に集まり登りだす。当日は10年に一度の寒波

来襲と言う予報通り、風が強く気温も低い。モノレール搬器の屋根シートにも雪が積もっていた。

沖崎さんをお願いして発泡スチロールのケースとポリタンク2個に水を入れて持ってきてもらった。通常、冬は小屋内でも氷点下になり、汲み置きの水は全て氷になるためポリタンクは空にするのだが、置き水で助かった、と言う登山者の声に答えて発泡スチロールに入れた水が凍るかどうかの検証をする。



小屋に着く

水を発泡スチロールケースに入れる

荷物と沖崎さんに乗せて終点に向かう。途中の旧終点前後に登山道の交差に注意を促す看板を設置して終点に到着。荷物を降ろして足場の設置工事を始める。沖崎さん等3人には先に小屋へ行ってもらった。

少し下った所に積んである資材から杭を4本運び、出来るだけ真つすぐ打ち込み、切り揃えて上に板をコーチスクリユーで留めた。

充電ドライバーを2台とそれぞれの予備バッテリーを持ってきた

が、低温で電池電圧が下がり、穴を開けるのに苦勞した。ほぼ終了と言うところに沖崎さんが大ハンマーを携えて降りてきた。ハンマーを使う場面は無かったが、お氣遣いに感謝だ。

作業を終えて小屋に向かう。松井さんが熊手で道の枯葉を掃除してくださいだったので、足元がよく見えて歩きやすくなっていった。

小屋に着いて玄関脇の温度計を見ると、マイナス3℃だった。一週間前はプラス15℃だったので18℃も一気に下がっている。ストーブの灰掃除をお願いしていたが、湯川君によるとバケツ2杯分くらいの灰が溜まっていたそうだ。下山するまで2時間ほどストーブに薪を入れて燃やしたが、0℃だった小屋内は2℃までしか上昇しなかった。



コントローラー交換

本日の参加者

雪が残る階段

食後、ソーラー発電のコントローラーを新しいものと取り替えた。新しいものは充電電流や負荷に流れる電流を表示できる。今日は雪が降っていて日照は殆ど無いため、充電電流は0.4アンペア、負

荷電流は2.9アンペアだった。

水の入ったポリタンク2個を発泡スチロールケースに入れ、水が入っていることを書き添えて、従来の水置き場に置いた。次回に確認して、凍っていないければ発泡スチロールケースは効果あり、となる。効果が確認できれば、持経宿、平治宿にも適用したい。

戸締りを確かめ、午後1時前に下山した。(記：梶野)

#### 行動タイム

09:30 補給路登山口→10:10 モノレール終点 11:17→11:23 行仙宿 12:45→13:30 補給路登山口